山岳クラブ／グーテンタータ（ドイツ語　こんにちは）

月　報　やまふみ

No.230　2015年（平成27年）2月8日発行山踏み

湯峠からの雨飾山

会　　長　／MT
事務局長　／TK
ホームページ／http://guten-nagano.com/
編　　集　／ TS　TT　ST
印　　刷　／ 中央プリント株式会社

もくじ

山行報告（11/19～1/24）・・・・・・・・・・３～１７
山行計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８
編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９

★11月19日（水）妙義山系　高岩山、20日（木）表妙義　中之岳（個人山行）

0川

11月19日（水）高岩山

1日目　天気：晴れ
10：00恩賀登山口 → 10：20御岳大権現→10：45/55鞍部 →11：40/50雄岳山頂→12：10/20雌岳P1→ 12：40雌岳P3→ 13：20ロープ場→13：40キャンプ場入口

表妙義の縦走路で東岳－中之岳間が未踏でしたので、天気も良いので急遽計画しました。東岳－中之岳間ではちょっともの足りないかなと考え、以前に例会山行でいったことのある高岩山で、足ならし、手ならしすることにしました。
写真1　高岩山　雄岳
（右南峰と左北峰間のチムニー部が鎖場、雌岳より）

軽井沢インター出口近くにある恩賀集落の登山口から登山開始です。登山道は落ち葉にうもれはっきりしませんが、古いテープを頼りにのんび

り登りました。御岳大権現近くの岩には、ボルダリングの跡がありました。鞍部でハーネスを付け、余分はものをデポし、岩場（チムニー）に向かいました。登山者がおりませんでしたので、慎重にセルフビレイを取りながら鎖場を登りました。頂上では 360° の展望を楽しみました。下山は明日に備え、セルフビレイやロープ使用し、慎重に降りてきました。

11月20日（木）中之岳　東岳

二日目、天気：晴
7：50 中之岳神社Ｐ → 8：40 中間道分岐→9：00 西岳分岐→9：40 中之岳
10：20 東岳→10：40 石門分岐（エスケープ）→11：30 第4石門 →12：30 神社Ｐ

写真2　東岳より中之岳を望む（右奥は西岳）

中之岳神社の境内をとおり見晴らし台に向かいました。見晴らし台の近くの中間道との分岐には「上級者以外は立ち入り禁止」の看板があり、中級程度しかも高年ですが注意して登りますからと自分に言い聞かせ、西岳分岐に向かいました。
中之岳までは、初級～中級程度の鎖場でしたので、ところどころでセルフビレイをとり、慎重に通過しました。東岳の頂上直下の鎖場は垂直に近く、丹念にセルフビレイをとり、緊張しながらの登りでした。東岳からは以前に時間切れで撤退したルートでもあり、ロープを出しながら、ゆっくり楽しんできました。これで妙義神社～西岳（星穴岳）間踏破です。

★１１月２１日（金）　山急山（個人山行）

メンバー　CL：Ｕ木、Ｔ口、会員外２名

登山口 7：42→尾根 8：47→頂上 10：30→登山口 12：19

Ｕ 木さんからのお誘いは山急山、打田さんの「藪岩魂」に上級者コースで紹介されていて前から行ってみたいと思っていたので喜んで行くことにした。数は少ないがヤマレコの記録もあり、そのトラックレコードをダウンロードしてカシミールに描いてみたが 「藪岩魂」のコース概念図は尾根線と谷線だけの簡単なものなので 両者はどうも一致していない気がする。この辺は明確なルートがなく、どのように歩いてもよさそうだと思いながら

なんとか想定ルートを Garmin に打ち込んだ。

参加者は U 木さんと私、それに会員外の方2名の4名。6:20 オリスタを出発して碓氷軽井沢 IC で降りて国道18号沿いの登山口へ。登山口への林道には「藪岩魂」の説明にある通り 開けて入れるロープがかかっていて 車で入らせてもらう。ほどなく登山口、一台だけの駐車スペースに車を置いて谷沿いの道を進み始めたのが 7:42。赤テープもところどころ付いていてそれほど迷うようなことはない。

基本的にはずっと谷沿いの道を進んで頂上近くの尾根線に出たのが 8:47、少し休憩して今回の核心部分に迫る。ロープ数か所を経てと呼ばれる尾根の少し下の道を進んで山急山頂上の下の辺りに岩の祠がある（写真）。そこからまず五輪の岩を目指すつもりであったが途中から道を失った。よく見ると五輪の岩への道は途中からルンゼを降りて分岐しているらしい。そのルンゼは発見できたが かなり手ごわそうで相談の結果止めようということになった。

そこから西へ山急山頂上を目指したが道が発見できず断念。いったん戻って「棚道」入口から(西側から)の頂上へのルートは楽だった（頂上 10:30）。

そこからは Garmin で位置を確認しながら尾根を降りていき登山口近くで往路に合流して 12:19 車に戻った（想定ルートとは全く違う道であった）。

この辺りの山は炭焼きなどに使う作業道がいくつもあり、やはりどこを歩いてもよさそうな感じがした。GPS があれば自信を持って歩けるが、地形図とコンパスだけで行くのは上級者向けかもしれない。

Ｔ口 記

★11月30日(日) 黒姫山登山 （例会山行）

Ｌ：Ｓ川 Ｋ林 Ｕ松 Ｈ岡 Ｍ島

長野 6:30→戸隠大橋 7:30→黒姫山 12:00→戸隠大橋 16:00

11 月の最終日に例会山行。
私自身、初めての例会参加と初めての黒姫登山を楽しみに、その日を迎えた。
7 時 30 分に戸隠大橋駐車場を出発、長い林道を歩き登山口に到着。
一息入れて黒姫山頂を目指し登山開始。途中、分岐を経て登山道を行き周りを見渡すと、高妻山、佐渡山、御巣鷹山などよく見え気分は最高だった。

7 合目辺りから雲が出て、山々が隠れたが山頂に到着しお昼を食べている内に雲が切れ、周りの景色がまた見え出した。
特に北アルプスの槍の穂先が見えた時はうれしく、いつかはあの頂きにと思いを馳せた。
下山は七つ池→分岐→古池とルートを取り、16:00 に大橋駐車場に無事到着。
山行中、S 川 L ほか皆さんには地図の見方や装備品の使い方など色々と教えて頂き、ありがとうございました。
色々と勉強になり、今後も例会に参加し学んで行きたいと思い帰路についた。

M 島記

★12月13日(土)～14日(日)　雪上訓練、(忘年会、スキー練習会)

12月13日(土)雪上訓練(五竜スキー場)

T屋　M井　S川　Y本　K林　M下　S谷　H岡　T井　H部　D原　K藤

T 屋さんを講師に雪上訓練を行った。この日は前日にかなり雪が積もり、当日も雪が降りしきる中での訓練となった。始めはスキー場から小遠見方面へツボ足でラッセル訓練。新雪が腰まであり、先頭は重労働だった。
続いて各自ビーコンの試験を全員で行い、わかんを付けて遊歩道の方からラッセルしながらスキー場に戻ることになった。私はわかん初体験だったが、思っていたより沈み、雪が深いため足を上げる動作が大変で疲れた。しかし、ラッセルをやらないと寒くてたまらない。そのため冷えるたびに先頭もやらせてもらった。最後はぶるぶると震えながらひまわりに戻りました。
ひまわりではおいしいご飯！疲れた体により一層おいしく感じた。
講師を務めていただいた土屋さん、本当にありがとうございました。　K 藤記

12月14日(日)　雪上訓練 2日目

L：T谷　S川　K林　D原　Y本

天気：曇りのち雪

朝、昨夜だけで 40 ㎝程積もった雪の除雪作業を行い 10 時頃にひまわりの近くの雪訓場所に向かう。
途中雪が腰まで有り、山の麓まで行くのに難儀する。
訓練内容は、昨日行うことが出来なかった支点工作が中心。先ずS川さんとK林さんが急な斜面をラッセルして登り、太い木の根に支点を確保する。ビレーはイタリアンヒッチで後続者が登る。下りはハーネスの後ろにザイルを結び、前向きに腰を低くして重心を前に置く意識で下るが、腰が引ける。
場所により支点の取り方が異なるため、ブッシュ等細い枝を使用する方法、ザイルを回収できるようにする支点の作り方、ピッケル、枝、雪柱等による支点作りなどを交代で練習する。昨年も行った方法も有ったがなかなか難しい。現場で素早く出来るようになるには何回も練習する必要があると感じた。
雪柱を利用した支点で懸垂下降訓練の時大きな「あっ！」の声に見上げると、頭が雪面、足が宙に浮いた D 原

さんが見えた。支点が壊れて 360 度回転して落ちた。幸いヘルメットを着用していたことと、3 メートル程の高さであったため無事だった。原因は、ザイルを斜面より大きく上の方に置いてテンションを加えたためらしい。
午後 2 時過ぎにひまわりに戻ると、スキー組は既に帰ったとの事だった。二日間、熱心に指導して頂いたＴ谷さんに感謝申し上げます。

Ｙ本記

★12月15日（月）　蓼科山　2530.3m　（個人山行）

Ｌ：Ｔ塚・Ｙ・Ｈ

女神茶屋 8:00→山頂 11:50→女神茶屋 14:30

佐久を出る時には晴れていたのに女神湖近くになるとちらちらと雪が降り始め、すずらん峠では結構な降りになった。すでに到着していた湯本さんと「どうするかね。」と待っていると、Ｔ 塚さんがやってきて「山はね～今Bだけどこれから Aになるから大丈夫だよ。もう少し待とう。」とのこと。「えっ？山の天気って？」と聞くと携帯で山の天気を知ることが出来るアプリがあるとのこと。さっそく教えてもらった。「これはいい！！」天気と風速、気温が標高別に書いてあって、しかも時間を区切って登山に適しているかどうかをA・B・Cのランク付けで示している。すでに殆どの人が入れているとの事・・・まだ入れてない人『てんきとくらす』です。これってとっても頼りになりお勧めです。
私達の前に二人出発したが、すぐ戻ってくる。女の人が大声で嬉しそうに叫んでいた。「この人リュック背負ってないんですよ～～～！」はっはっはっ　笑ったけど私だってやりかねないかも。そんなこともありますよね・・
最初は緩やかな斜面で急騰が3か所ある。すぐに熱くなって上着をヤッケに変える。12月はまだまだ温かい。それにしても今年は蓼科でも結構雪が多い。登山道はすっかり雪に埋まり、昨日降った雪が木々を覆い尽くし、雪雪雪雪に大満足で登る。
山頂に着くとお菓子の家がお出迎え。粉砂糖を振りかけた真白なケーキ。あの一角をかじったら甘いだろうなあと思えるほど氷りついている山頂ヒュッテだった。

さすが蓼科の頂上は風がある。写真を撮り、下山開始。山頂直下のモンスター群をたっぷり楽しみ、雪で歩き易い登山道を下った。

下りには晴れ間が覗き、樹氷を付けた木々の間から真っ青な青空を仰ぐほどになった。八子ヶ峰の真白な丘陵と茅野市の展望も利くようになりゆっくり楽しみながらの下山となった。
13日14日の忘年会と雪訓に参加できなかったが、今シーズンの冬山第一歩を踏み出すことが出来た。

記:H

★12 月 27日（土）～28 日（日） 八ヶ岳（硫黄～赤岳）・個人山行

CL：T 島　S 谷　（2 名）

1 日目・晴れ　　駐車場 12:00　赤岳鉱泉 15:30

どこか日帰りでと考えていたところ、T 島さんからもメールが入り私は冬の八ヶ岳は初めてのため八ヶ岳に決定。1 日目は赤岳鉱泉までなので、T 島さん宅に 9 時集合。ゆっくりと美濃戸口に向かう。

年末の 29 日から天気は崩れる予報のため、27、28 日に登ろうという登山者が多く駐車場はいっぱい。
美濃戸口から更に 200mほど下の駐車場を利用することになった。
赤岳山荘の駐車場は昨夜に満車になったそうである。また、今年は雪が多く、赤岳山荘までの道でスタックする車が非常に多いと駐車場の管理人が言っていた。
12 時から歩き始めるが、登山者が多い。道も踏み固められており、ワカンの必要はない。
15:30 に赤岳鉱泉に到着。とても寒く指先が痛い。
テントがところ狭しと張られている。小屋もかなりの人が入っている。今回はゆったりとと重い3・4人用のテントで2人のため、夜もとても寒かった。

2日目・晴れ　6:00 幕場　7:30 硫黄岳　10:50 赤岳　12:40 赤岳鉱泉　15:30　駐車場

4 時起床、6 時出発暗い中ヘッドランプで硫黄岳を目指す。稜線に出る手前でアイゼンをつける。
尾根に出ると急に風が強くなり、指先が凍える。
今回は風が強いが天気は快晴。尾根伝いに赤岳を目指す。

横岳の登りが少しいやらしい。風が強いときは注意が必要であるが、このときは弱くなっていたため、ザイルは出さなかった。

赤岳の直下で旧日本軍の格好をした登山者に会う。カメラを向けると暴風の中、直立不動で敬礼をしている。なかなかの根性である。

今日は雲ひとつない快晴。360 度の景色がすばらしい。富士山、南アルプス、御岳山、北アルプス、浅間山すべてがとてもきれいに見渡せる。冬の乾いた空気のせいかがとても澄んでいる。

風が強いため、休憩もそこそこに赤岳から行者小屋を目指す。我々は、下りのためまた風もないため、難なく降りたが、登りのときはかなりたいへんそうである。

行者小屋もテントがたくさん張られていた。12:40 に赤岳鉱泉に着きテントを撤収、帰りには人なれしたカモシカに会うこともできました。
360 度の展望。最高でした。

By　S 谷

★ 12月30日（火） 戸隠登山 （個人山行）

Ｌ：Ｓ川　　Ｄ原　　Ｋ藤

6時30分　奥社駐車場発　→7時20分奥社発　→11時00分～11月30日五十間長屋　→12時30分　奥社　→13時30分　奥社駐車場

天候は雪。駐車場のあたりも連日の降雪で結構積もっていた。天気予報は下り坂予報が出ており、私はこの登山を非常に警戒していた。なぜなら、厄年の最後の登山だったからである。個人的に散々な目に合った2014年、最後はなにかあったらまずい！と気を引き締めつつ、奥社へ向かった。

奥社までは道があったが、どうもそこから先トレースは無さそうだ。雪も多いところでは胸まである。志川さんを先頭に尾根までトラバース気味に上がっていく。安全そうな所では自分もラッセルを交代するが、雪が深くなかなか進まない。しかしやっていると淡々とした作業のせいか集中力が増し、スローながら進んでいく。

尾根まで出ると横殴りの雪が吹き付け、視界もよくない。この様子ではピークは無理だろう、どこまで行けるかと話ながら、雪庇を避けラッセルしていく。吹雪と先の見えない不安感からそろそろ引き返したいという気持ちが何度も浮かんできつつもゆっくりと先へと進む。

そして前方に岸壁がうっすら見えてきた。やった！なんとか五十間長屋に到着。ここまで長かった～と一息つき、私の心は折れていたので、引き返すことになった。

帰りは早い早い。トレースが所々消えかかっていたが、楽なので気分は良く下る。次は晴天かつトレースの跡を行きたいなと思いつつ、無事に登り納めができて良かった。

Ｋ藤記

★1月4日（日） 根子岳山スキー （例会山行）

Ｌ：Ｓ川　　Ｋ原　Ｋ池　Ｓ々木　Ｕ松　Ｓ木　Ｋ藤

9:00　奥ダボススキー場ゲレンデトップ→　11:30山頂　→　12:30スキー場駐車場

天気は快晴、今年は菅平も雪が多いようで、山は真っ白。私にとっては会に入って初めてもバックカントリー。そして1人だけスノーボードである。そのため、私と普通のスキーで来た植松さんはスノーシューで上がっていくが、キャットが通るため道が整備されており、あまり沈まずに進めるので割と快適。しかし山スキーは早い。スイスイと登っていく。山頂付近まではそれなりのペースだったが、それ以降は雪が深く、結構埋まるため四苦八苦しながら上がった。

そして山頂。晴天のため展望が素晴らしい。お昼を食

べ、待ちに待ったドロップ。斜面はきつくなく、雪は軽く最高の雪質だ。しかし斜面がゆる過ぎるため、止まる度スノーボードは身動きがとれなくなる・・・。下部は更にタラタラでとうとうストックを出し、漕ぐ。進まない・・・辛い・・。そして駐車場へ出て終了。なんだか下りの方が大変で、融通のきくスキーはいいなと感じた山行でした。

K藤　記

★1月10日（土）　妙高・赤倉山スキー山行　（個人山行）

ＣＬ：Ｋ原　　Ｋ池　Ｈ　Ｓ木　Ｕ松

行程　8:00　池の平スキー場集合　9:00 リフト乗車　9:30 リフト終点発　10:20 要
11:45　赤倉山肩(1920m)　　12:15 滑降開始　13:30 頃滑降終了

1月の3連休の初日、妙高山麓へ山スキー山行です。午前8時、池の平スキー場駐車場で佐久組と長野組で合流しました。スキー場に着いたとき、雪がかなり降っていてこれからの山行にちょっと不安がよぎりましたが、しばらくすると雪は小降りになっていました。バックカントリー初心者の私としては、妙高の豪雪の中、登りについていけるかちょっと不安でしたが、天気が好転してくれることを願いながら、リフトに乗って、いざ出発しました。リフトを2本乗り継いで、ゲレンデのトップに登り、いよいよシールを付けて登行開始です。（山スキー道具のない私は、ゲレンデスキーを担ぎ、スノーシューで皆さんのあとを追います。）

まずは旧ゲレンデと思われる切り開きの中をラッセルしながら登ります。以前はリフトがあったのだと思いますが、今はスキーヤーの姿はなくゲレンデを一歩離れると、静寂そのもので雪原のなかには我々のトレースのみです。

しばらく登り、ゲレンデ状の終わった地点からやや左方向へ林間へ入っていきます。はじめはそれほど急斜面ではないですが徐々に斜度も上がってきます。50分ほどの登りで「要」の林道へ登りつきます。ここで休憩をとり、水分、エネルギー補給。雪はほぼ止んでいます。少しガスがかかっているので見通しはあまりないが、まずまずの天候になっています。

林道を越えて、いよいよ急斜面の登行開始となります。斜めに切りながら上がっていきます。雪の深さもゲレンデ周辺より徐々に深くなってきています。そんな中をラッセルしながら登っていきます。私はスキートレースのあとを追っていくので、ラッセルもそれほどではないのですが、スノーシューでも結構もぐってしまうところもあり、スムーズに上がれずてこずりながらの登行になりました。

標高が徐々に高くなってきて風も少し強くなり、小雪も舞ってきて、一度脱いだアウターをまた着直しました。気温はそれほど低い感じはなかったですが。

要から1時間強の登行が続き、ややばて気味になってきたころ、木々もまばらになってき、本日の目的地1920m地点の赤倉山肩に到着しました。この先、赤倉山頂までは標高差で200mほどのようですが、ここからは狭い稜線となっていてスキーでの滑降には不向きとのこと。今日の登行はここまでということで、なんとかスタート地点にたどりつきました。

ここで休憩および昼食タイム。しばしの休憩のあと、シールを外し、いよいよ滑降開始です。登ってきた方向より、やや右寄りにまっすぐ下方にむかって、絶好の斜面が広がっています。ガスで視界は良くないので、スキー場などは見えていませんが、滑っていくのに支障はない程度の見通しです。

硬くなったバーンの上に新雪が30～50cmくらいのっている感じで、パウダースノーの斜面をかき分けて滑

っていく最高のバックカントリー気分でありました。
　われわれのパーティー以外は誰もおらず、自然を独り占めという感じで、しばらく下っていきましたが、突然という感じで、木の陰でお昼を食べている3人パーティーと出会いました。聞くと杉野原スキー場の方から登ってきたとのことでした。これだけのバックカントリー世界があるのだから、人が入っているのも当然かなと感心します。少し下るともう1組と出合いました。
　林道まで降りてからは、左方向へトラバース気味に進んで池の平方面へ戻っていきます。そしてまた下へ向かって緩やかな斜面を気持ちよく滑っていきます。
　ゆるやかな尾根状の斜面を下っていくと左側は沢になってやや深く切れていて、その向こうの木々の間からはゲレンデを滑るスキーヤーの姿が見えます。もうゲレンデの高さまで降りてきたのでした。沢を越えてゲレンデ側へ行くため下降点をしばらく探し、沢底まで急斜面を降ります。そこからゲレンデまでわずかではありますが、急斜面の登行となるため、シールを付けて登り返します。
　上の斜面にでると、そこはもうゲレンデのすぐ近く。最後の休憩をとった後、駐車場までゲレンデを締めくくりの滑りで降りて、無事駐車場まで帰着しました。
　天気も徐々に良くなり、絶好のバックカントリーを楽しむことができた1日でした。
　このあと妙高温泉で汗を流し、黒姫でそばをいただいて帰路に就いたのでした。　　U 松記
（この日はカメラなしのため写真なしの報告になってしまいました。申し訳ありません）

★1月10日（土）　粟立山山スキー （個人山行）

L：M井　K津　S谷　T島　H部

6:30 南長野運動公園集合　8:40 登り口出発　12:00 山頂直下到着　12:30 滑り出し
14:15　登り口到着

　曇り空の下、南長野運動公園に集合。駐車場が工事中で集合するのも少々手間取りましたが、T 島さんの車に荷物を目いっぱい積んで出発。向かう北部の山々は雲の中で雪が降っている様子です。中野辺りから雪がチラつき出し、妙高の辺りではガンガンに降り、今日の山行はどうなる事やらとちょっと不安になります。
　道の駅あらいで K 津さんと合流し、粟立山に向かいました。登り口には既に車が2台置いてあり、その横に我々の車も置かせてもらい、雪の降る中、先行のグループのトレースを使わせてもらって歩き始めました。途中、雪は降ったり止んだり、時に吹雪いたり晴れ間が出たり。暑いんだか寒いんだかウェアリングの調節が難しいです。先行のグループは途中のピークから滑り出したようで、尾根に上がってからはノートレースになりました。湿った重めの雪だったので、先頭の人はラッセルが大変だったと思います。
　山頂周辺の稜線は大きな雪庇ができていて、天気も悪く眺望も望めないので、山頂下から滑り出すことにしました。上部の斜面は視界も悪く雪面は風に叩かれて硬くなっていて、快適♪とは言えませんでしたが、一部にはパウダーもありまあまあ。途中の斜度が緩くなっているところでは下りラッセルをせざるをえませんでした。次の大斜面は雪質は多少上部より良くなりましたが、雪面が見えにくくここも超快適とは言えません。大斜面を滑った所でお昼にし、まだ時間も早いし登り返してもう一回滑るか迷いましたが、そこまでいい雪ではないので却下。斜滑降をして登ったトレースの所に戻りました。そこにも広大な斜面が手付かずで残っています。トレースも付いているし時間も早いし、M 井さんはまだ滑り足りない様子なので、M 井さんと二人で 20 分くらい登り返してドロップ。雪が止み晴れ間が出てきて雪面が見え易くなり、私にとっては本日ベストの滑降となり満足して帰還となりました。
　翌週、私達が滑った斜面で雪崩がありお一人亡くなる事故がありました。私達が滑った時も所々雪崩の跡があり、木のない大斜面は滑るには快適ですが雪崩はやっぱり怖いです。　　H 部　記

★1月11日（日）　旧ARAIスキー場でスキー （個人山行）

L：M井　S谷　T島　H部

8:40 スキー場手前出発　10:30 滑り出し　11:10 駐車場所到着

前の晩は道の駅あらいでテント泊をして今日は大毛無山滑降の予定です。旧ARAI スキー場の入り口に向かって車を走らせますが、どうも以前は除雪してあった所までは今は除雪していないようです。地図で確かめてアプローチが近そうな所に車を停めて雪に埋もれた林道の上を 20 分くらい歩いて廃墟となったホテルに着きました。初めて来た私はその大きさにビックリです。

昨晩は雨混じりの雪だったので、前日にも増して重い雪です。リフト下をしばらく歩くとスノーモービルが7台集結して、ドライバー達が歓談していました。スノーモービルに荒らされる前に滑りたかったので頑張って歩いたのですが、登っている間にきれいだった斜面を散々荒らされ、リフト2本分登った所で登り終了。非常に湿った重い雪だったので滑りは苦労しそうだな、と思ったのですが、意外に滑り易くあっという間に車の停めてある所に着きました。

車に道具を積んでいると、そこにお巡りさんがやってきて、私有地なので滑らないください、なんかあったら困りますので、とニコニコしながら注意されました。あんなに広い斜面なのに滑れないなんてもったいない話です。

H部　記

★１月１１日（日）　葛尾山（個人山行）

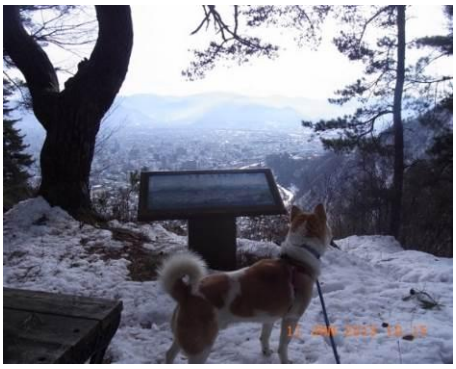
U木

登山口　9:11―頼朝山　10:15ー葛山 011:25-頼朝山　12:15　ー登山口 13:05

大峰山のとなりの山。昨年はこのころ摺鉢山や明覚山の 5 時間コースを登ったが 12 月 1 日からの腰痛で 30 日我慢のひびであったがまあなんとか 2 時間コースできるようになったのだから贅沢は言えない。

記事としては 3 名の中年男性に遭遇と途中松の大木が倒れていて 3 度ほどくぐるはめになった。まわりでもかなりの数の大木が倒れていた。登山道は雪があったたが踏まれていたので楽だった。ときどき日差しがあり予報よりも良かった。

静松寺との分岐点で一休み。登山口からすぐにベンチがあり裾花川がすぐ下　葛山から往生寺までの案内マップ。長野市制 100 年記念のときに沢山案内板が作成されたようだ。



頼朝山の東屋と案内板

頼朝山頂上には壊れそうな東屋があり山から見える長野市方面の頼朝山の案内板があった。下ると林道

がありここから往生寺の上の郷路山と葛山への分岐になる。しばらく登ると中年の男性二人に追い抜かれた。木を跨いだりくぐったりと忙しい。途中又静松寺での分岐にぶつかる。雪がびったりついているが踏まれていたので困難はなかった。

頂上近くなるとまた往生寺への分岐があり誰かひとり行ったフミ跡があった。ここからはすぐに頂上となる。先ほどの二人はいないので県道のほうにくだるか大峰のほうに縦走したのだろうか。飯縄が頂上に雲がかかっているが見えた。ここも東屋がありクッキを食べて一休み。登りはじめみすごくお尻の筋肉が痛かったが 30 分のぼると嘘のように無くなった。しばし休んでから軽アイゼンをつけてくだることにした。直下で中年男性一人が登ってきたが空身であった。アイゼンがあると踏ん張る必要がないので楽ちんである。連休は皆さんどこに行ったのかななんて思いながら雪の里山を楽しんだ。

葛尾山からみた善光寺平と山頂の証拠

★1月12日（月） 湯川アイスクライミング （個人山行）

Ｌ：Ｓ川　　Ｓ木　Ｈ　Ｈ部　Ｋ藤

9：00湯川駐車場付近→9：40湯川岩場→16：00湯川駐車場付近

天気は快晴。前日に降った雪が道路に残る中、湯川へ向かった。雪のため路面状況が悪いため駐車場スペースまで行けず、アプローチで若干歩く。岩場は沁みだし（？）の水が凍っており、氷柱が歩非常に美しい。もう2グループほど先にきており人気スポットのようだ。

さて支点を作り、トップロープで登る。1人目にＳ木さんが飄々と登っていく。なんだか簡単そうに登っていくなーと下で眺めていた。そして2番手は私。Ｓ川さんの貸し出し用バイルで登る。しかし、刺さらない！一歩も上に上がっていけない。ガンガン叩いても刺さらない。そのうち下で見ていたみなさんに心配され、Ｈ部さんに交代した。服部

さんもするする上がっていく。

ああ、アイスは自分に向いていなかったのだなと感じ、まだ朝一なのに帰りたいなと思い始めた・・・。しかし、そういう訳にもいかない。再挑戦の機会がまわってきた。次はS々木さんのバイルを借りた。すると簡単に手が決まる！さっきと全然違う。なんとも素晴らしいS々木さんのバイルのお蔭で、なんとかスクリューの地点まで登ることができた。（Sさんは「昔はみんなこれで登ったんだぞ」と言いながら貸し出し用バイルで普通に登っていました、流石です。）

その後交代で4ルートほど登ったが、一日通して日蔭で非常に寒く、後半は張ったロープが岩に凍りついて動かなくなるほどだった。私はむやみに叩くのでなく、溝をうまく使ってバイルをひっかけるということを学び、楽しく登ることでできた。しかし、後半は力がなくなってしまい、ロープの結びを自分でほどけないほどだった。終わりがけには実践派山スキーヤーのHさんの挑戦があり、改めてすごい人だと感じた。

アイスではまた今までとは全く違う世界を感じた。氷の美しさに感動した一日でした。支点を作り道具を貸してくれたS川さん、S木さん、ビレイしていただいたHさんH部さんありがとうございました。

K藤記

★1月17（土）18日(日)　瑞牆山、金峰山（例会山行）

CL：T塚、S木、M島、D原

行程
1日目：7：20瑞牆山荘発→8：20富士見平小屋→11：40瑞牆山山頂着→山頂発11：50→富士見平小屋着13：40
2 日目：7：45富士見平小屋発→12：00金峰山山頂着→14：25富士見平小屋→15：20瑞牆山荘着

北杜市役所駐車場でM島さんの車に4人で乗り込み、瑞牆山荘へ向かう。到着はしたが、駐車場は雪が多くて乗り入れ不可、道路脇1台分をたまたま山荘関係者の方が譲ってくださり、無事駐車できた。

1 日目登山開始。前日に降ったらしき新雪が20cmほど積もっている。車道を過ぎると結構な急

登が続くが、風もなく快適な道中で皆元気。ただ、朝は少し見えた青空も次第に雲行きが怪しくなり、富士見平小屋につくとまったく展望なし。T 塚さんの判断で日程を入れ替え、本日は瑞牆山に変更。道中は巨岩がごろごろしているが、目を見張ったのはやっぱり桃太郎岩。どうしてあんなにスパンと割れるんだ？自然の力に素直に感動してみた。瑞牆は夏に 1 度登っているが、雪のおかげで岩の段差が埋まり冬のほうが登りやすい。季節によってぜんぜん違うものですね。頂上直下でアイゼンをつける。山頂は展望なしだったので、写真をとって早めに下山。14：00前には富士見平小屋についてしまった。日が沈んでくると半端ない寒さに襲われストーブにかじりつく。が、外にはテントが5張も。よくだなあ・・・

2時ごろから酒盛りが始まる。去年までは小屋で酒の販売はなかったらしいが、今年はビールからワインまで選り取りみどり。けっこうみんな飲みましたね。夜はキムチ鍋で温まり、8：30には就寝。毛布を3枚と布団をかけていたが、寒くて何度も目が覚める。

2日目5：30起床。朝ごはんのラーメンをおなか一杯食べてから出発。天気は快晴。小屋前からの富士山もバッチリ見えてます。風がちょっと強いかな。登り始めが結構きついが、途中木々の間から富士や八ヶ岳がきれいに見えるのでテンションが上がる。大日岩で休憩を取りながらアイゼンをつける。森林限界を超えると頂上までは半端ない風が吹き付けて飛ばされそうになるわ、鼻水は凍るわ。しかし、八ヶ岳、南アルプス、中央アルプス、北アルプス、妙高、そして富士山。360度のパノラマは感動モノでした。

下山後、増富温泉でぬるーいお湯に浸かり（熱い湯船もあるのですが）冷え切った体をほぐしてきました。

D 原記

★ 1月18日（日） 小日向山（1908m）山スキー （個人山行）

CL：T 島、K 津、M 井

行程:7:00 白馬駅 → 8:00 二股駐車場発 850m → 9:25 林道分岐→ 12:15 山頂着 12:55 山頂発 → 13:25 猿倉荘→ 14:25 駐車場着

8 時前に完璧に除雪された二股駐車場に到着、既に 4～5 台の駐車があり準備中のグループもある。隣に停車した 2 人連れも小日向山だそう。なぜかスプリットボードが多い。

計画では発電所の林道を詰める予定だったが、そちら方面へのトレースはなく、猿倉へ向かう林道のトレースをたどる。前日までは荒れ模様であった天気は徐々に回復している模様。途中 1050mからの林道へ分岐してからが本格的な登りとなる。途中1300mあたりまでラッセルしてくれていた先行7～8人のグループに追いつき、そこからラッセルとなるが、すぐに左の尾根から 3 人連れのグループが入り、あとは後ろから来た外人連れの 2 人組が強力に山頂までラッセルしてくれた。なので、ろくにラッセルせずに楽々と山頂までたどり着いたが山頂直下は急斜面で時間はそれなりにかかった。

12:15 山頂着、2 グループ 5 人が先客。登り途中からこのメンバーにしては珍しく晴天が広がり、小日向山山頂は白馬三山の大展望台となった。白馬三山は谷を隔てて指呼の間である。山頂はそれほど風もなく、大展望を満喫しながら昼食をとっている間に他のグループは登ってきた北東尾根のルートへそれぞれ滑り出していった。

さて、私たちの滑降は猿倉荘目指しての北面滑降の予定。直下の急な斜面を避けて回り込みながら台地へ、スピードを落とさないように登山道沿いの尾根へ滑り込んだ。雪は風でパックされたやや重雪、所により良好な雪質。北面の軽いパウダーを期待していたのだが・・・。

猿倉荘からの林道にトレースはなく、登り開始地点まで下りラッセルだった。14:25 駐車場まで滑り込んで終了。

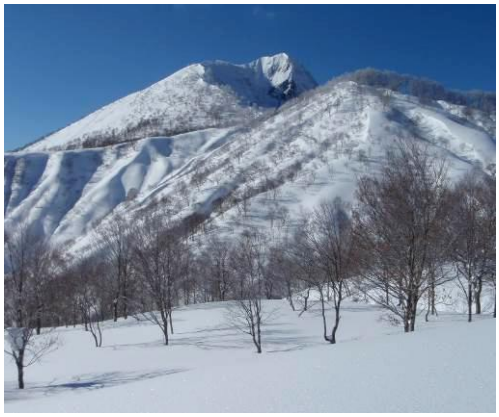
白馬在住のＩ崎さん宅に寄ってから倉下の湯で汗を流し、小川村あたりまで渋滞の続く道をいつもの倍くらいかかって長野まで帰った。

Ｍ井記

★1月24日(土)　大渚山山スキー （個人山行）

Ｌ：Ｔ島　Ｋ津　Ｍ井　Ｓ木　Ｋ藤　Ｈ部

7:10 白馬村役場出発　8:50 小谷温泉出発　11:55 山頂到着　13:30 登り返し
14:50 コル到着　16:30 道路到着



－12℃の寒さの中、白馬に集合して、小谷村の大渚山の登山口に向かいました。大草連の部落から登る予定でしたが、道が除雪していないため、いつもの登り口まで辿り着けず、急きょ予定を変更して大草連に車をデポして小谷温泉から登ることにしました。空は蒼く、空気はひんやりとしていて、今日はいい雪が期待できそうです。

人気のコースなのでトレースが付いているかと思いましたが、先行者はなし。トレースがなくてもいつものようにＴ島さんとＭ井さんがぐいぐいラッセルをして、スキー組は快調に進みます。今回Ｋ藤さんだけボードを担いでスノーシューで参加。前日降ったばかりの雪なのでスキーが歩いた後でも少々足元が沈んでいます。出だしから大変そうですが、若いのでどうにかなるはず！

天気が良く、北側に回ると冷たい風が吹き付け雪も硬くなっていますが、概ねスキー組は快調に進み、唯一のスノーシューは相変わらず大変そうです。登る途中にも快適そうな斜面が広がっていて、滑りたい気持ちを抑えながら山頂に急ぎます。ほぼ3時間で山頂着いたので、スノーシューはよく頑張った！

山頂からは今回のメインの北面滑降です。もちろんノートラックです。天気が良いので雪質が心配でしたが、さすが北面！そんな心配は無用でした。ブナ林の快適な斜面とサラサラの雪が続きます。斜度が緩くなっても雪がサラサラなので板が走り、もったいなくて止まりたくなかったですが、地形の凹凸が激しくなり気持ち良く滑れなくなった辺りでお昼を取って、コルまで登り返し。登り返しの標高差は 200mくらいでたいしたことはなかったのですが、途中大きな沢地形を横切ったため、滑ったり転んだり苦労があり、思ったより時間がかかり、コルに着いた頃には日が陰り始めていました。

コルから少し登って大草連に向かって滑り出したのですが、登りをケチったため途中でトラバースになり、ボードはこれまた難儀しています。K 藤くんは途中何度も“今までの人生の中で一番つらい”と呟きながらも、どうにか最後のドロップポイントに辿り着きました。南面はモナカになりかけていてスキーヤーには少々手ごわい雪でしたが、そうなるとボードは強いです。さっきまでヘロヘロだった K 藤さんは生き返って颯爽と滑って行きました。

集落に出た地点から車までは、道路を歩くと結構距離があるようでしたが、途中で親切な地元の人に近道を教えていただき、割とスムーズに車の近くまで戻ってこられました。

いい雪、いい天気、いい斜面、と三拍子揃った素晴らしいツアーだったのですが、初参加の加藤さんは“人生で一番つらい”経験に懲りて、今後はゲレンデでしか滑らない！と宣言していました。残念です。

H 部 記

＊ 編 集 後 記 ＊

一昨年から始めた 5 年日記が今年 3 年目でなんとか続いている。で、昨年の1月の日記を見ると、山は 1 度行ったきりで、ほとんど天気に恵まれず行けなかった。けれども今年の冬シーズンは、11月の立山スキーから始まって、大方天気に恵まれた当たり年だ。毎週すんなり行けると、逆になんか怖いね。で、新ネタもなく、次はどこに行っていいのか～贅沢な悩みが…。 ／てらしま

エル・キャピタン ドーン・ウォール 登頂やったね。それにしても 14 日間よくがんばりました。二人とサポートチームに拍手！ ／えりぱぱ

金峰・瑞牆山行で、営業小屋に泊まりました。シュラフの要らない泊り山行って、あまりに久々で妙な感じ。寒さがどの程度なのか逆に想像つきません。テントでのいつもの勝手と違うのが不安でした。けれどもこの小屋ではそんな心配は無用、客はうちらだけだったのでストーブを占領してぬくぬく過ごし、お布団もあったか、快適な夜を過ごさせていただきました。…でもテントがいいと思うのはやっぱ貧乏性ゆえかな。。。 ／とっこ